

2024年3月期第3四半期 決算説明会 Q&Aサマリー

Q1: 今年度の通信計測事業の売上見通しを10億円修正したが、サブセグメントごとの内訳を教えて欲しい。

A1: モバイルを20億円減少させ、ネットワークインフラを10億円増加させました。

Q2: 通信計測事業のFY23Q3では、FY23Q2と比較して営業利益率が低下した理由はなにか？

A2: 利益率が高いモバイルの売上比率の減少により売上高営業利益率が低下しました。

Q3: スマートフォンは在庫調整が進んでいるとの報道もあるが、通信計測事業への影響はどうか？

A3: 現時点では5G開発用測定器の需要拡大には至っていませんが、今後はNTN機能やAI機能がスマートフォンに標準搭載されることで、新たな測定器需要が期待できます。

Q4: 今後の3GPPによる標準化の進展が通信計測事業にどのように影響するか教えて欲しい。

A4: リリース18での「AI/MLモデルの配信/転送」機能の標準化、リリース19でのFR3（7GHz～15GHz帯域）の標準化により、今後AIチップの開発需要や、通信プロトコルの検証のための測定需要が期待できます。

Q5: NTNの普及により通信計測事業にはどのような影響があるか？

A5: NTN対応の端末は規格に対応していることを確認する試験が必要となるため、端末開発用および製造用の計測器需要が期待できます。